

図書館がなくなった。

— 東日本大震災により失われた図書館の現地からの報告 —

特別上映

『槌音』大槌町の東日本大震災の前と後を描いた23分の映像詩(三重県初公開)

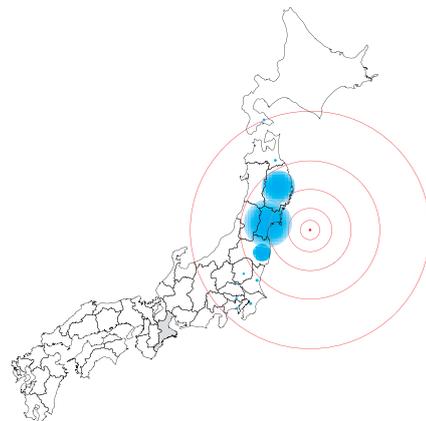
平成 23 年

10月1日 土 18時30分 - 20時30分 (18時開場)

三重県生涯学習センター 2階 視聴覚室

問い合わせ先(三重県立図書館): TEL 059-233-1182

入場無料
申込制
(先着120名様)



佐々木 健 (ささき けん)

岩手県大槌町生まれ。大槌町教育委員会事務局生涯学習課長。大槌町役場入庁後、教育委員会事務局、企画財政課などを経て現在に至る。今回の東日本大震災発生を受け、4月1日からは生涯学習課長として避難所の運営を担当したほか、図書館長なども兼務する。生き物文化誌学会会員、財団法人地方自治体公民連携研究財団客員研究員でもある。共著に『野生生物と地域社会』(昭和堂)、『まちづくり指針 / 持続可能なまちづくりに向けて』(編集)、『大槌の自然、水、人—未来へのメッセージ』(東北出版)など。

県立図書館職員 (岩手、宮城、福島各県の現地調査の報告)



「槌音」の監督について(当日は来場されません)

大久保 愉伊 (おおくぼ ゆい)

1986年岩手県大槌町出身。成城大学芸術学科在籍時から自主映画を制作。『海に来たれ』(2007年)が劇場公開される。その後も『波』(2008年)などを制作し、現在長編映画を制作中。本年8月、大槌町の映像をまとめた『槌音』を発表し大きな反響を呼ぶ。



図書館がなくなつた。

三重県立図書館は、東日本大震災からの復興を支援するため、県民の皆さんに東北に関心を持っていただく取り組みを行ってきました。トークライブの最終回となる今回は、岩手県大槌町出身の映像作家大久保愉伊氏の貴重な映像詩を西日本で初めて上映します。

その後、実際に震災を体験し、現在も町の復興に取り組んでいる大槌町の図書館長 佐々木 健氏からご報告をいただきます。また、県立図書館職員による現地調査の報告も交えながら、図書館が被災するということを考えてとともに、復興をめざす東北の「今」を知っていただくための機会とします。

プログラム

- 1 映像詩「槌音」(23分) 上映
- 2 基調報告「いま、大槌では」 佐々木 健氏 (大槌町立図書館長)
- 3 岩手、宮城、福島各県の現地調査の報告 三重県立図書館職員
- 4 フリートーク

申込制 (先着120名様)

トークライブ入場ご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。先着120名様をご招待します。お申し込みの際には、**お名前、電話番号、入場希望人数**をお知らせください。なお、お申し込みが定員になり次第、締め切らせていただきます。

お申込先(件名)：三重県立図書館「トークライブ」係

電話 059-233-1182
F A X 059-233-1191
Eメール mie-lib@library.pref.mie.jp
窓口 三重県立図書館カウンター

*お申し込みいただいた個人情報は、今回の目的以外には使用いたしません。

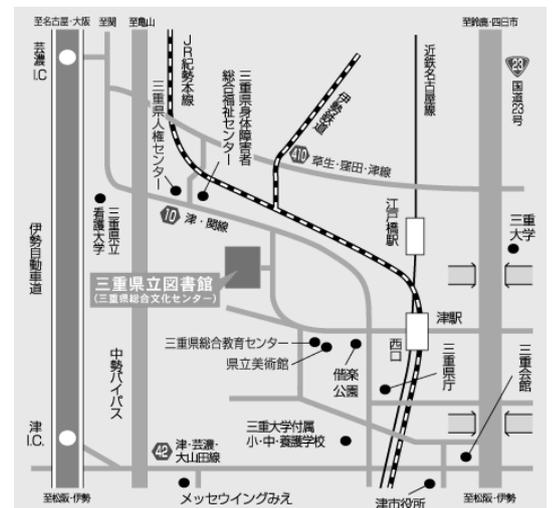
同時開催

「東北を知ろう、東北へ行こう！」展

場所：三重県立図書館 展示コーナー

期間：10月2日(日)まで

* 休館日 9月5日、12日、20日、26日、30日



交通のご案内

三重県総合文化センター 〒514-0061 津市一身田上津部田 1234

- 鉄道/近鉄・JR 津駅下車 ■ バス/津駅西口から約5分
- 徒歩/津駅西口から約20分 ■ タクシー/津駅西口から約5分
- 自家用車/伊勢自動車道津インターから約15分
芸濃インターから約15分

* 工事のため、駐車場の一部が使用できません。
公共交通機関のご利用をお願いいたします。

映像詩『^{つちおと}槌音』について

監督 大久保 愉伊

私は、震災から2週間後、大槌町に帰省できました。町についた時、私は涙も出ませんでした。なぜなら、自分の生まれ育った町とは違う土地を見ているかの様だったからです。現実を完全に受け入れることのできないまま、帰京しました。それから1週間、自分が東京に持ち出していた大槌の映像と現在の大槌の映像とで編集し、何か作ろうと思ひ立ちました。それは何のためでもなく、ただただ自分が現実と過去を受け入れることのできない夢心地な気持ちをなんとかしようとしていたのかもしれない。過去の映像には今はない街並み、人が映っていました。儚くも記憶は忘れてしまいます。しかしこれを観ることで、記録が再び記憶として心に残っていけることを切に願っております。

